

2006年日本国際貿易促進協会第33回訪中団 大きな成果の予感！ 率直に意見を交し合った北京での2日間

今回で33回目となる日本国際貿易促進協会の訪中団は、橋本龍太郎元首相を団長に総勢69名が、4月16日から21日までの日程で、北京・安徽省黄山・上海を訪れた。北京では賈慶林政治協商会議主席との会見をはじめ、薄熙来商務部長、畢井泉国家発展・改革委員会副主任、さらには科学技術部、国家環境保護総局の幹部職員による講演などを通じて、第11次5カ年計画実現にける中国政府の強い意志と熱意に触れるなど、意義深い2日間を過ごした。

橋本龍太郎会長が賈慶林政治協商会議主席を表敬訪問

4月18日、日本国貿促の会長である橋本龍太郎団長は、副団長、顧問など団員69名とともに人民大講堂北門・東大庁を訪れ、賈慶林政治協商会議主席と会談を行った。

この席で賈慶林政治協商会議主席は、「中日両国は近隣の関係にあり、地域および世界に与える影響は重大である。両国関係の発展は両国人民の利益に合致するのみならず、地域および世界の平和と安定に重要な意義を持つ。中日両国は共同の努力により、政治的障害を取り除き、両国関係を安定発展の軌道に戻さなくてはならない」と述べ、日中経済交流の重要性を強調した。

これに対し橋本団長は「3月末に私は日中友好7 団体会長一行の団長として訪中し、胡錦涛国家主席と会談した。その席で胡主席は、両国関係の発展が変わってはならないと言明された。しかし、メディアが正確に伝えず、誤解を生じた面もある。我々は今回、予定通りに訪中し、商務部、国家発展・改革委員会との話し合いを行い、安徽省と上海を訪

問する。両国民の交流は後退してはならない。少しでも前進するよう努力する」と、返礼の言葉を述べた。

そして最後に日本の経済界を代表して、三菱東京UFJ銀行相談役の高垣佑副団長が「第11次5カ年計画に関する諸施策をうかがい、中国がいかにして平和的な発展と調和社会の実現をめざそうとしているかがよく理解できた。この基本方針は日本の政策とも一致している。困難はあるだろうが、日中の交流を通じて目的が達成されるものと確信している」と両国の経済協力に対する抱負を述べ、会談を締め括った。

問する。両国民の交流は後退してはならない。少しでも前進するよう努力する」と、返礼の言葉を述べた。



日中友好交流晩餐会（長富宮飯店）



橋本 龍太郎 氏 賈 慶 林 氏

問する。両国民の交流は後退してはならない。少しでも前進するよう努力する」と、返礼の言葉を述べた。

第11次5カ年計画の達成にむけ 日本の経済界ができる支援とは何か

協力関係の樹立に向け重点施策に真剣に耳を傾ける

日本国際貿易促進協会は、日中国交正常化前の1954年に設立された、日本における最も古い友好組織の一つである。以来、対中貿易・経済交流の豊富な経験と実績、そして相互の深い信頼関係をもとに、広範囲な分野で交流を続けてきた。会員には日本を代表する製造業、エレクトロニクス企業、航空会社、商社、銀行・損保などの金融機関、物流業、食品会社など、そうそうたる企業が名を連ねている。

今回で33回目となる訪中団は、総勢69名という大所帯となった。今回は第10期全人大で採択された「第11次5カ年計画」の発表を受けての訪中であるだけに、中国政府高官の発言に注目が集まった。

今次の5カ年計画は中国にとって歴史的発展の新起点

となるものである。中国政府は経済の構造改革、効率の向上、省エネの実行などにより、年率7.5%の経済成長をめざすとしている。そのうえで、この5年間でエネルギー消費を20%削減し、汚染物の排出量を10%削減することを公言している。

日中貿易は2005年に1800億ドルを突破した。日本の対中投資累計は533億ドル、3万5000件に達している。第11次5カ年計画は、日本にとって対中貿易を拡大するチャンスといえる。4月17日から21日までの公式日程には、中国の国家指導者との会見や重点施策についての講演会が、目白押しで組まれることとなった。事実、これらの会見や講演会では双方から率直な意見が述べられ、活発な意見交換や提言が行われるなど、非常に意義深いものとなったのである。

2006年日本国際貿易促進協会第33回訪中団日程

月/日	午前	午後	夜
4月17日(月)	薄熙来商務部長と会見	畢井泉発展・改革委副主任による講演	日中友好交流晚餐会
4月18日(火)	賈慶林政治協商会議主席との会見	科学技術部、国家環境保護総局の講演	
4月19日(水)	安徽省人民政府との懇談ほか	日本企業参観ほか	
4月20日(木)	黄山観光	黄山王啓敏書記主催夕食会	
4月21日(金)	上海人民政府表敬訪問	上海市浦東新区人民政府表敬・視察	答礼宴

国貿促訪中団インタビュー

日本の科学技術が第11次5カ年計画のお役に立てたら幸いです

訪中団副団長 島津製作所相談役 藤原 菊男



第11次5カ年計画について、国家発展・改革委員会の畢井泉副主任から、「今後5年間、矛盾や行き過ぎを抑えながら、調和の取れた経済発展をめざしていく」との力強いお話をうかがい、中国政府の並々ならぬ決意を感じ取ることができました。特に科学技術に関しては、中国の各分野でこれから

必要となる技術やノウハウを、長年にわたり蓄積してきた日本企業が少なくありません。今回の訪中団にもそうした企業が何社も参加しています。当社も科学技術で130年の歴史をもち、ノーベル賞受賞者を抱えているなど、お役に立つ技術を種々持ち合わせております。今後、科学技術をはじめとする多様な分野で、日本企業が中国の国家建設のお役に立ち、東アジアの繁栄に貢献していけたらと考えております。

率直に話し合うことで問題解決への道は開かれる

訪中団副団長 東京電力株式会社 顧問（元中国大使） 佐藤 嘉恭



中国は大きな国であり、それだけ問題も大きく、悩みも深くなりがちです。日本はまずそのことを理解する必要があります。私はかねがね中国の政策当局者の方々に、日本の経済人と

の話し合いの場では、中国がいま何を必要としているのかを、率直に語っていただきたいとお願いしてきました。その点、今回の商務部、国家発展・改革委員会、科学技術部、国家環境保護総局との話し合いは、非常に有意義なものでした。次回からは時間を充分にとり、より深い話し合いができるようになればと思っています。

日本の経済協力が東アジアの平和に役立つことを実感した

訪中団副団長 フォレストオーバーシーズ株式会社 代表取締役会長 渡邊 五郎



薄熙来商務部長のお話に感激しました。第11次5カ年計画で示された中国の新国家政策に協力していくことが、中国の国家建設にも、日本の経済発展にも、また東アジアの平和と安定のた

めにも、大いに役立つと感じました。当社は森ビルの関連会社であり、現在、森ビルでは上海市浦東陸家嘴地区に、101階建ての超高層複合ビル「上海環球金融センター」を建設中です。このビルが上海の新しいランドマークとなり、また中国の経済発展のシンボルになることを大いに期待しています。

日本の中小企業が進出しやすい環境づくりをぜひお願いしたい

東工コーセン株式会社 代表取締役会長 贅田 興嗣



商務部を訪問した際、薄熙来部長より「日本には世界に通用する素晴らしい技術をもっている中小企業がたくさんあると聞いており、そういう企業との交流を深めたい」とのお話をうか

がいました。日本には優秀な技術をもちながら、技術の継承者がいないという問題を抱えている中小企業が数多く存在します。なかには、中国に進出し日本で育てた技術を中国の技術者に伝えたいと考えている経営者も少なくありません。そうした中小企業が進出しやすい環境づくりを、ぜひ整備していただきたいと思っています。

日本企業を狙った商標登録問題の解決を望む

株式会社みずほコーポレート銀行 顧問 菅野 真一郎



日本の中小企業が中国進出に二の足を踏む要因のひとつに、日本企業を狙った商標の先行登録問題があります。これは日本によくある社名や商品名をあらかじめ登録しておき、該当する

企業が進出しようとした際に、商標使用料と称して数億円もの大金を要求するというものです。実際にこうしたケースが頻発しており、進出を断念した中小企業も少なくありません。日中の経済交流をよりいっそう促進するためにも、こうした阻害要因の排除に、中国政府の断固とした措置をお願いする次第です。

人的交流の活発化こそが日中新時代を築き上げる

西日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部総経理 浅沼 唯明



国と国が理解しあうには、人の交流が一番と考え、JR 西日本では関西地区の諸団体と連携しながら、中国からの商務旅行の招待を行っています。この招待旅行は「環境」をテーマに据え、

大阪の大規模ごみ処理場や、琵琶湖の水処理施設などを見学コースに組み込みました。それが中国での環境問題を考える一助になれば幸いです。こうした交流を通じて両国の理解が深まり、ビジネス客・観光客・修学旅行客が増えて関西経済の発展につながり、Win-Winの関係が出来上がることを願っています。